

第30期社会教育委員の会議

第4回定例会

議事録

令和4年10月6日

【１】開催日時

令和４年１０月６日（木）１８時３０分～２０時３０分

【２】開催場所

教育会館３階 研修室「ぎんが」

【３】出席委員

井上委員（議長）、堀井委員（副議長）、峯岸委員、豊田委員、村上委員、村内委員、
佐藤委員、新海委員、山崎委員

【４】出席職員

教育委員会事務局

内田生涯学習部長、加野生涯学習・地域学校連携課長

佐々木社会教育係長、御園生社会教育担当係長、清野社会教育係主任

【５】傍聴人

無し

【６】次第

１ 第３回議事録の承認

２ 議事

（１）グループワーク振り返り

～持続可能な地域活動におけるキーワードとその背後にある本質を探る～

３ その他

（１）次回日程について

○議長 ただいまから第30期社会教育委員の会議第4回定例会を開催いたします。

開催に先立ちまして、本日は委員が御都合により欠席という連絡をいただいておりますので、御報告いたします。

それでは、本日の議事日程に従って進めたいと思います。

まず、第3回議事録（案）の承認でございますが、事務局より事前に送付されておりますので、委員の皆様には御確認いただいていると存じます。何か訂正等がありましたら、この場でお申出いただき、皆さんで確認したいと思いますが、いかがでしょうか。

では、問題ないようでしたら、御承認をお願いしたいと思います。よろしいですか。

ありがとうございます。それでは、この会議終了後、村内委員と佐藤委員に署名をしていただくようお願いいたします。

今回の議事録の署名については、新海委員と山崎委員をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、修正の有無にかかわらず、後日、事務局より完成版を配付されるということでございます。よろしくお願いします。

では、議事に移ります。

第4回になりますけれども、前回、前々回とグループワークをしてまいりましたので、改めて30期の社会教育委員の会議が何を目指して、これからどのように話を詰めていくかということを確認したいと思います。そうでないと、話がいろいろと拡散してしまっ、あらぬ方向に行ってしまうと困りますので、時々、方向性を確認するような回を設けたほうがいいかなと思って、今回、そのように事務局をお願いしていました。

では、事務局より諮問の狙いを要約した内容とその理由について説明していただいて、今後の議論の方向性を共有したいと思います。お願いします。

○事務局 それでは、事務局より説明をさせていただきます。

今回の諮問につきましては、第1回にも説明をさせていただきましたが、改めて御説明いたします。

前期の第29期会議では、「地域と学校でつくる連携・協働のしくみ」をテーマに、おやまちプロジェクトや各委員の事例等から、連携協働する背景や課題等を検証していただき、新たな連携協働のプロジェクトとなる仕組みについて御提言をいただきました。そこで、今期会議では、第29期を継承しまして、地域と学校の新たな連携協働のより一層の実現に向け、実践的なモデルとなる活動事例を通しまして検証していただき、地域のさらなる活

性化につなげていくために、「地域資源を活用した新たな連携・協働の実践的モデルづくりと検証」を諮問させていただいたところでございます。

そして、この間、先ほども議長からお話があったように、4つの活動事例を基に、持続可能な地域活動とは何かについて、2回のグループワークを行っていただきました。今後、グループワークから、持続可能な地域活動となるためのキーワードを抽出していただくとともに、その背後にある本質を探ることで、諮問にありますように、地域と学校の連携協働の実践的活動事例を抽出するための一助になるのではないかと考えております。

といいますのも、なぜ人は地域活動に参加するのか、皆様、考えたことはありますでしょうか。それは、子どもたちのためという大前提のものがあるかもしれませんが、実際は仕事を持つ方がほとんどで忙しいのに、また、一般的にこのような活動は、負担もあり、人間関係が煩わしいと言われることがあります。なのに、その活動に関わる方がたくさんいらっしゃいます。なぜ参加するのでしょうか。どうして参加するのでしょうか。そのあたりの参加する背後には何かがあるのではないのでしょうか。ぜひ、なぜ、どうしてという視点で、その背後にあるものを見つけ出すことができれば、どのような時代状況となっても、持続可能な地域活動になっていくのではないかと考えております。

したがって、事前に議長とも御相談させていただきまして、今回の議題の中心は、まずは2回のグループワークから持続可能な地域活動に必要なキーワードを抽出することを御提案申し上げます。

簡単ではございますが、以上となります。

○議長　ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がありましたけれども、何か御意見や全体で確認したいことなどはありますでしょうか。

前回の第29期の会議では、「地域と学校でつくる連携・協働のしくみ」をテーマに議論が進められていました。30期は、それを受けまして、「地域資源を活用した新たな連携・協働の実践的モデルづくりと検証」ということで、前回が地域と学校の連携協働の話だった、それを、今回ももちろん地域と学校の連携協働の話ではありますが、さらにそこに地域の資源を活用した実践的なモデル、それに検証という言葉がついているので、ちょっと難しいものまで含んでいるかなと思います。

今、事務局からお話いただいたのは、前回、前々回と既に地域資源を活用した連携協

働モデルを実践されている方、子ども食堂、子どもぶんか村、おやじの会、総合型地域スポーツクラブからお話をいただきましたけれども、違う活動でありますけれども、そこに何か共通するものがあるんじゃないかですとか、それをもう一度確認しながら、次のテーマにつなげて、テーマは一貫しているんですが、次のディスカッションや、実践的なモデルづくりに進んでいきたいと思っております。また、そこに進むためには、2回にわたって、Aグループ、Bグループで話していただきましたので、聞いていないこともありますので、それをもう一度皆さんと確認しておいたほうがいいかなと思っています。

事務局から、持続可能な地域活動になるためのキーワードということがありまして、それがあるから持続可能になるのか。簡単にそういうものが見つかると思えないんですけれども、今まで続けられてきた、実践されてきた、大事していることをもう一度確認していくことで、キーワードに挙げられていた、大事にしていることというのは何なんだろうか、そして、その背後にあるのはどういうことなんだろうかということを考えておいたほうがいいのではないかなと思っています。

「地域資源を活用した新たな連携・協働の実践的モデルづくりと検証」ということなんですが、あまりノウハウ的なところにいきますと、その団体については、それでうまくいったとしても、それを形式的にまねをしても、ほかのグループでうまくいかないということもあるでしょうから、単なるノウハウというよりは、活動で大事にしてきた事柄の背後にある本質的なもの、その本質を見抜くのはなかなか大変ですけれども、表面的な現象ではなくて、その背後にあるものこそが、形は変わったとしても、ほかのところで生かしていけるもの、ないしは、生かしていくべきものではないかなと感じております。ただ、今の話は全然具体性がないので、これからもう一度、4つの活動を振り返りつつ、中心となって実践されてきた4人の委員の皆さんのお話を聞きながら、キーワードを挙げ、そして、そのキーワードの背後にあるものは何なのかということを考えられたらなと思って、事務局から説明をしていただきました。いかがでしょうか。

先ほどの話について、今、私のほうでまとめてみたんですが、もう少し事務局に聞いてみたい点、あるいは、今の私の整理の仕方について御意見がある方がいらっしゃいましたら、発言をお願いしたいと思います。

副議長、いかがですか。

○副議長 特に異論はないんですけれども、地域資源の活用といった場合に、ここずっとグループワークをしてきたわけですが、資源といった場合、人、もの、金があるじゃない

ですか。でも、地域資源でずっと話してきているのは、やっぱり人なんです。人というのが大きなキーワードになっているので、人の活用というところが多分メインになると思うんです。

それで、持続可能という考え方なんですけれども、問題は、キーワードの充実なんです。でも、私が今漠然と前提として持続可能をキーワードで考えると、1つは、おやじの会も何でもそうですけれども、PTAが1つの大きなワードとしてあるのかなと思うんです。PTAの大切さというのはすごくあるのかなと。

前回、おやじの会の話で、たしかPTAが終わった後の受皿がということを言われていた記憶があるので、人、PTAという組織がキーワードにあって、さらにいくと、その中で楽しさとか、大人たちが楽しまないといけないねというのがここ数回あったので、楽しさ、やりがいとかそういうところがキーワードになるのかなと漠然と思いました。なので、逆に検証で考えると、やりがいとか、楽しさとかそういうところで、どのように何もないところに受皿をつくっていくのかという考えになるんだろうなと思うんです。ある意味、楽しさを前提としたモデルをつくりたいわけです。そのきっかけの部分で、それを大切にしながらそれを意見交換してやっていく必要があるかなと思います。今までの議論を踏まえてですけれどもね。

○議長 今、副議長が言っていたのは、前回のイメージが残っていますので、その前のも含めてしていきたいと思っておりますので、順番としては、前回のA、Bと一応メモはしているんですけれども、それよりも逆のほうがいいのか、その前のほうがいいのか、どちらでも構わないかなと思っておりますが、いかがですか。

そうしたら、前回のほうがまだ頭に残っているかもしれませんが、その前のときから、子ども食堂の話から出たのは、特に人ということに関して感じられたこと、それから、楽しさです。ただ、今、副議長が言われたのはPTAの話ですけれども、どちらかというと私の理解では、子ども食堂の場合には、必ずしもPTAではないというところもありましたので、PTAはあくまでも例として出されたものなので、PTAでなければ駄目だということでもないのです。そういったことも含めてまずは自由に思っていることを語っていただければと思います。A、Bと分かれてしまったので、Bのグループにいた方は話を聞けていない部分もあるかもしれませんので、もう1回、思い出すためにお願いいたします。今日は4人の方に話していただくということを考えております。

○副議長 そうですね。だから、2つに分かれるのかなと思うんです。確かに子ども食堂

の活動を始められて、どうやったら担い手を広げられるんだろうという悩みがあったと思うので、P T A活用型というのは、組織があって、そこでつながりがあって、やりたい人でやっていこうという、ある程度の型があるんですけども、個人発意型というところで活動を広げていくのは非常に課題だと思うので、そこら辺の話を聞きながら、何かしらうまくできればいいかなと思います。

○委員 2015年に子ども食堂を立ち上げたきっかけは、地域活動をしている方から一緒にやらないかと声をかけられたことです。地域活動をしている方の元をたどっていくと、その方たちのお子さんたちでつながっていたということなので、結局は何十年も前のP T Aのつながりに起因するということが1つです。何か一緒にP T A活動をしていたというよりは、近い地域に住んでいて、生協とか生活で共通点がある中で、政治活動だったり、世の中にいろいろある活動の中で、気の合う人たちが残ってつながっていったということがあるんですが、元の知り合ったきっかけは、子どもたちが同級生だったということになります。その中で、料理を作る人がいないねということで声がかかったのが私だったということになっています。そのときに人が集まらなかったというのは、コアなメンバーががっちと決まっていたので、もともと新しい人を募集する気はなく、本当にこの地域に貧困で食べられない子がいるのだろうかという疑問からまずやってみて、こういったことの必要性があるのかという検証的なことで立ち上げたのが始まりです。

その頃はまだ子ども食堂が普及していなくて、世田谷でも1番目か2番目ぐらいの子ども食堂だったということもあるので、地域の方からは何をやっているのという話ですし、ちょっと言い方はあれなんですけど、先進的な、目新しい取組に敏感な地方、北海道から九州、沖縄の方まで見に来られるということで、外からの注目度はあったのですが、殊、地域に広がっていったかというのと、ちょっと違っていました。

そんなことを経ながら、少しずつ子ども食堂も広がっていき、前回はテーマがあったと思うんですが、経済的な貧困ではなく、関係性の貧困だと気づいたときに、おなかいっぱい食べるということよりは、心が満たされるということを私たちの活動のメインにしていこうと。子どもが楽しく健やかに育つ、地域で見守るという軸は変わらないのですが、マインドとして、食べる、おなかいっぱいということから、心が満たされるに変わっていったということです。さらに、誰かに頼るとか、依存と言うと変なんですけど、そういう関係よりは、子ども自身に力をつけていったほうがいいんじゃないのかなという気持ちが私の中で芽生えて、そういった活動を立ち上げたりと変遷していきました。

この5月から始まった子ども食堂は、世田谷区社会福祉協議会さんと一緒にやったということもあって、自治会長さん等をお呼びしながら、また、松原小学校の隣ということもあって、学校の先生や新BOPの事務局長などとも連携しながらやったことによって、何となく、ふわふわと人が集まってきました。料理をやりたいという方とか、早期退職をして子どもに関わりたいという方が何となく集まってきて、そして、不思議なことに子どもたちも、課題とか必要性を持ったいろいろなタイプの子が集まってきて、今、定員いっぱいになってしまったということがあります。

今は子ども食堂というと、皆さん、それぞれ何となくイメージを持たれていて、貧困というよりは関係性とか、子どものための場所だという感覚が特に世田谷はあると思います。

あともう一つは、誰でもどうぞというよりは、会員制、登録制として、1つクッションを置いたんです。そうすると、にぎやかしの人よりは、もう一手間かけても来たいという方が来るのかなというところがあります。なので、私たちは、場所のこともあったので、広く誰でもウエルカムというよりは、何らかの必要性がある、「何らか」というのは、こちらが決めることではなく、一緒に御飯を食べる、ひととき、ほっとできる場所を必要としているということであって、課題を解決するのではなくて、その気持ちに寄り添えたらなというところでやっています。

ふわっとしたことなので、メンバーの中でもいろいろなことはあるのですが、同じ御飯を食べて、同じ空間で何回か重ねていくうちに、いろんな問題が出てきて、ちょっとずつクリアというんですか、話し合うということで、誰かが強く、私が代表だから、こうなさいということではなく、意見を聞きながら、話しやすい雰囲気をつくっているつもりなんです、そのようにやっているところになります。こんな感じでよろしいでしょうか。

○議長　ありがとうございました。

僕が注目したいなと思ったことを幾つか申し上げますと、先ほどPTAということがありましたけれども、組織としてのPTAということではないけれども、子どもが縁でつながる大人というのが大本にあるのかなということで、必ずしもその人たちはPTAの何かという意識はないのかもしれないけれども、今や大人たちが子どもを介して出会う場所というのが非常に大きなところなんだというのが1つありました。

ただ、昔の子ども食堂はそう始まったとしても、委員がやられている今の子ども食堂は社協などを契機としていとおっしゃっていましたので、子ども食堂の知名度がアップしてきたという時代背景もあるんでしょうけれども、もしかしたらきっかけとか、人の集ま

り方も社協ですから、行政ではないですが、公的なものを通じた集まり方というのも、先ほど言われたことで言うと、人の集まり。子どもを介した人のつながりでもあるけれども、それとはまた違うタイプとして、ある種の行政とか社会福祉協議会とかがあるのかなというところは、きっかけの話では気にしておいていいかなと思います。

もう一つ、キーワードのところで少し気になるんですが、その背後はまだよく分からないんですけれども、何となく集まるとか、ふわっとしたというのがちょっといいなと思っているんです。それと比べて、かっちりした、分かりやすいものが多分あると思うんですが、そういうものとは別に、ふわっとした、何となく集まるという形での集まりも多分あるんだろうし、あってもいいんです。そうすると、何となく集まる、ふわっとしたというのが持続可能な、また、地域の人が地域資源を使いやすいということとの関係において、今後、皆さんと一緒に考えていくいいテーマになるかなと思っております。ありがとうございました。

そうしましたら、子どもぶんか村、委員、何をしゃべらなきゃいけないか、あまり気にせず、この間、話していただいたこと、そして、今日、委員の話に触発されたりしたことをお話いただければと思います。

○委員 子どもぶんか村は、青少年船橋地区委員会という組織が運営しているので、完全にちゃんとした組織です。そこには委員としても選ばれますけれども、やりたいと思っている方たちは自分たちで推薦するという方法を取っていて、地区委員会が推薦する人たちが今半分ぐらいになっています。あとは町会からの推薦、PTAの方、青少年委員など、地区委員会のメンバーはいろんなところから来るんですけれども、そのうちの半分は自己推薦みたいな形でやっています。その推薦の母体はPTAです。PTAで役員をなさった方たちで、もう少し地域の子どもたちと深く関わっていきたいという人たちが子どもぶんか村地区委員になってくれています。

PTAというのは、基礎的な組織のありようを経験した人たちというのかな、会長がいて、副会長がいて、書記がいてというのもあるんですけれども、総会があって、みんな民主的に意見を述べ合う、そして、予算を立てて、予算の範囲内で活動する。本当に基本的なものをPTAで学べるというところでは、非常に大事な組織であるし、PTAと学校のつながりがすごく強いので、その方たちと一緒に学校ともつながりが強くなっていくという点では、PTAの方々はとても貴重な人たちと言えます。

地域、学校、家庭、3者が連携して子どもを教育するんだよといったときに、私たちは

地域の教育力を担おうねとみんなで思い描いて、子どもぶんか村をつくったわけですが、子ども、学校教育、家庭教育、地域の教育がもう少しいろんな情報を交換し合いながらやっていきたいなとは思いますが、なかなか学校はハードルが高いというか、そういうところと言えば、なかなか難しいなと。ただ、管理職の先生方は非常にウェルカムをしてくださるけれども、一般の先生たちがどうかといったら、ちょいちょい迷惑な感じというか、余計なこととは言わないけれども、あまり関心がない。でも、私たちのスタンスは、先生たちだって、自分の地元で自分の子どものためにそういう活動をなさるほうがいいと私は思っていて、この学校に勤めているから、この地域のことまで知ってほしいとは全然考えていないです。学校の先生たちともう少し近づけたらいいなという気持ちはいつもあります。

あるとき、学校の先生たちが通知表の評価を書くのが非常に難しくて、大変手こずっているという話を聞いて、先生たちが悩んでいた、困っていた、親からのクレームとかにびくびくしていたとか、そういうことがあるんだとしたら、私たちは地域で先生たちと一緒に話し合ったりとか、情報を交換できたらいいいよねということもあって、先生たちの研修会みたいなものをつくったらどうかしらとちょっと盛り上がったんです。そうしたら、元教育委員会の指導主事の先生が「それは教育委員会を敵に回すよ。教師を教育しているのは教育委員会と校長だけ」と言われて、私もそのときに、ああ、そういうことなんだなと感じたのを覚えています。先生たちの応援団になりたかったというか、先生たちは、もうちょっとこういう言い方をすれば、親たちはついていくのに、こんなふうに言っちゃうと離れちゃうよねというのを教えてあげたいなとか、そんなことだったんですけれども、それさえもうまくいかないんだなと感じて、もっと学校に近づいていくということが子どもにとってもいいんじゃないかなと思っています。

私たち子どもぶんか村として、クラブ活動を続けてきましたけれども、そこからこぼれてしまう子どもたちがいるということに気づき始めて、今年の夏にNPO法人をつくりました。子どもぶんか村プレイスという、子どもぶんか村をやっている人たちで、そこは食支援と学習支援、子育て支援を3本の柱にしてやっていく法人をつくったんですけれども、それはそれで子どもの味方というか、親との関係が楽しくて、少しずつ根づかせていきたいなと今思っています。

以上です。

○議長　ありがとうございました。

先ほどの話との関連で言いますと、P T Aというのが大事じゃないかということ、それに対して子ども食堂では、必ずしもP T Aじゃないけれども、学校の子どもを通じてという話をさっき整理しましたが、逆に子どもぶんか村のところでは、まさにP T Aを経験した人たちがいるから、初歩的なトレーニングをしないでも、学校に関わったり、いろんな活動をする人たちがいてくれるんだという話で、P T Aではなくなっていますけれども、そのときの活動が生きているというお話がありました。これも今回、ぜひ共有しておきたいものの一つではないかなと思っています。

それともう一つ、地域との関係で言うと、今の話では、そういう関わりを持っていくと、どうしても先生方も地域の活動に関わってほしいと思われるのが多く言われますけれども、今のお話だと、教員も教員が住んでいる地域があるので、学校に勤めているからといってその学校の職員、先生方が学校のある地域に関わってくれたらうれしいけれども、そんなことを地域の団体として強く求めているわけではないんだということなんです。これなんかは、今、地域と学校との関係とか、地域づくりの核になるみたいな話で、地域、家庭は応援するけれども、学校は何もしてくれないみたいな話が出てくる中では、必ずしもそう思っていないんですよということは、当事者の話としては出てきている。

困っているのであれば、それぞれの先生が無理に土日の活動に関わってくれとは思わないけれども、先生方が家庭や地域の問題で困っているのであれば、一緒に何かできないかという考え方があるとおっしゃってしまして、まさにそれがコミュニティ・スクールとかで言われていることなんです。そのアプローチの仕方みたいなところでミスマッチがあったので、元指導主事の先生が何か言ったんですかね。それは勘違いだと思っているので、研修をするとか、指導するみたいな言葉遣いをすると、多分、元指導主事の先生たちは、自分の仕事ですから、それはちょっとと思うんでしょうけれども、指導主事も含めて教育委員会、教育指導課がうまく全体をコーディネートすれば、そんなに大きな問題にならないとは思いますが、何かうまくかみ合っていないというだけで、学校も参考になることがあれば、家庭のお父さん、お母さんはどうしているのか。また、強く言われてくるようなことがあって、若い先生なんかは困っちゃうじゃないですか。そうした場合に、そういうときにはどうすればいいかみたいな話は、ある意味、校長先生も頭を痛めているところかもしれないから、いろんな意見が聞けるときには参考になるだろうと思いますけれども、その仕方ですね。困った保護者や地域の人がいる上に、さらにもっと強い何かプレッシャーが来ると感じてしまうと、学校は困っちゃうんじゃないです

かね。

○委員 教員の協力について、自分が住んでいる地元で協力するということについては私は大賛成で、若いときから思っていました。同じ世田谷区に住んでいて、近い学校で例えば避難所運営とかそういうところのスタッフになっていたら、どんなに働きやすいかなと思っていた。今、管理職には、学校を守るという責任があるから、勤務先のところに行くのは当然とも思っています。世田谷区じゃないところから、はるばる遠くから来ている先生たちにとっては、土曜日とか日曜日の地域の行事に参加するのは大変にハードルが高くて、でも、地域と関わってやるということは、さっきもおっしゃったように、地域の方からの貴重な御意見というか、そんな堅い話じゃなくて、一緒にやることによって一体感も生まれるし、ほとんどいいことしかないんです。なので、出てきたらいいよと。特に若い先生には、応援団が増えるから、そういうことをやったほうがいいよねとずっとやってきました。

話が飛ぶんですけれども、実はコロナでその関係が今築けなくなっています。学校の場合は、PTA活動もそうなんですけれども、学校に来られないというか、対面の関係がつかれない。そこで、元はPTA同士で顔見知りになってという親同士の関係も今後どうなっていくのかという心配もあります。

○委員 ちょっとうがった見方をすると、コロナで学校が楽になっているような気がします。地域の人たちが学校に来て、いろんなことを言うことに気を遣わなくてよくなって、いろんなものに招待もしなくなって、多分、楽だなと思っているなという感じがします。

○委員 確かに。

○議長 いろんな話を聞きますと、例えば運動会にしても、学年ごとにしたりとか、密を避けて、今までのあるものを大事にしながら、新しい形にしなければいけない。コロナの感染者が増えると、またいろいろあるので、そうでもなくて、困っているところもあるんですか。それぞれの思いが伝わっていない感じがありますけれどもね。

○委員 でも、おっしゃるとおりで、うがった見方は本音の部分で持っていると思います。だって、招待客というか、外部の人が来られない状況になって、中でいろいろやっているわけなんだけれども、お客さんがいない家を想像してみれば分かることで、別に汚くしているわけじゃないけれども、そういう面での気安さがあるのは事実だと思います。でも、別に復活してきたとしても、それで急にわあっというふうにはならない。発想が違うので、今、学校でやっていることは違ってきているなとこの二、三年で私はすごく思っているの

で、必ず前のおりには実現できないなという半分諦め。何も元どおりにできない。新しい形に変えていくというつもりでやるしかないかなと思っていますけれども。

○議長 多分、多くの校長先生はそう思っていると思います。

○委員 小学校は分かりませんが、コロナは置いておいて、中学校では、地域との関わりで、地域と一緒にやりたいというのは、そうすべきだ、それはしたほうが良いと分かっているんだけど、自分たちの学校教育で目いっぱいだというのが本音だと思います。普通の授業があったり、その後に部活動があったりで、かなりブラックと言われるぐらいなので。だんだんよくはなっているんでしょうけれども、やっぱりそれが本音だったんじゃないかなと思っています。

それから、指導云々の問題なんですけれども、アドバイスというか、ある意味では、こうしたほうが良いですよという親心ですよ。そういうふうにとってくれる先生ばかりだったらいいけれども、それに対してバーサスになってしまう、感情的になってしまう先生もいることは事実です。言い方がとても難しいです。だから、指導と言ってしまったら、恐らく8割方の先生方はかちとくるだろうし、親から見た、あるいは、地域から見た1つの意見だというか、アドバイスだという意味でとってくれる先生ばかりじゃないなという感じがします。それを言うんだとしたら、例えば直接言わないで、管理職を通じて言うとか、あるいは、人間関係ができて先生にやんわり言うというならば、これはプラスになると思いますけれども、なかなか言い方が難しいかなと思います。

○議長 教員も若くなってくると、自分のお父さん、お母さんよりも年上の方だったりするので、なかなか言い返すこともできないし、そういう方と仕事をするのも少ないから、難しいかなと思いますが、とてもありがたいことだと思います。

○委員 人間関係ができていれば、委員が言う分には別にいいと思うんですけれどもね。ただ、元指導主事は誰か分からないけれども、その人間関係を分かっているから、一般論として言ったんじゃないかなと思いますけれどもね。

○議長 話を元に戻しまして、続きをと思いますけれども、委員、いかがでしょうか。

○委員 今、お話を聞いていて、幾つか私の考えというか、思うところがあるんですけれども、まず、PTAという話がありましたけれども、PTAが母体になっているというのは、逆にそれしか地域でつなげる手段がない。本来ならば、町内会とか商店街とかなんです。おやじの会で話をするときによく出す例は、昔、第一次産業が主体だったときは、地域で協力しないと、お父さんたちも自分たちの仕事ができなかったから、地域で協力す

るのが当たり前で、その証じゃないですけども、村祭りがすごく盛り上がったとか、地域の顔見知りというのが当たり前だったのが、第三次産業でみんなサラリーマンになっちゃって、それぞれが仕事をしていて、地域でつながる必要がなくなっちゃったから、おやじの会の会員をするときも、おやじの会の活動をするには地域でつながる最大のチャンスと訴えているんですけども、前回も申し上げたように、それを逃してしまうと、卒業するとばらばらになっちゃって、もう戻ってこれないという。町内会に入りますかといったら、若いお父さんたちは町内会にほとんど入っていないので、この構図がとてもまづいなと前から思っています。P T Aにクローズアップするのは分かるんですけども、それしかないだけでしょうと思います。

それともう一つ思うのは、これもおやじの会で話をすることがあるんですけども、イギリスだと、孤独な老人問題という、年を取って独り暮らしをしていて、孤独で話をする人もいなくて、そういう人たちの寿命が短いだったり、孤独死しちゃうみたいな話を社会としても何とかしなきゃいけないということで、そういう対策を国として打っているという話を記事で読んだんです。日本もそういうことをしないと、老人が孤独死しちゃいますよねと。

P T Aという話とかぶるんですけども、子どもがいる世帯は地域とつながるチャンスがあるけれども、結婚もしない、子どももいない世帯がどんどん増えていく中で、地域とつながるチャンスはもっとなくなる、それで孤立化していく世帯がどんどん増えるんじゃないですかと。だから、それも含めて、P T Aというか、子どもがいる親だけつながっているということだが、おやじの会もそうなんですけれども、そこだけ盛り上げようとしても、日本全体として分母がどんどん縮小していくような気がするなと思うところがあります。

おやじの会もそうですけれども、いろんな話を聞いていて共通しているなと思うのは、1つのつながりを持ちたいだったり、誰々さんが一緒にいるから手伝おうかみたいな。それは書面でもリーダーの役割はそういうところにあるとかという話をおやじの会でもしたと思うんですけども、やっぱり人とのつながりがないと。逆に言うと、気に入らない人がいたら、やりたくないみたいな。当然、そうなっちゃうと思うんですけども、そこでいかにコミュニティーをまとめるかとか、みんなで気持ちいい意見を出し合って、誰かにやらせているのではなくて、自分たちで主体的にやるような組織をつくるかというのが、1つ非常に大きなキーワードなんじゃないかなと思います。

あともう一つ、さっきの先生の教育の話で思ったんですけれども、おやじの会をやっていてもすごく思うんですけれども、教育委員会とか行政の組織とかもそうだし、官僚だったり、金融の組織とかもそうなんですけれども、こういう組織があって、こういう今までのやり方があるって、この問題は、このカテゴリーでこうやって、だから、それに当てはまらないから駄目みたいなことはよくあると思うんです。

おやじの会の活動をやっている面白いのは、自分たちはこういうことをやりたいんですけれども、卒にはめると、そこではじかれるんですけども、何とかしようよ、だって、俺たちがやろうとしていることはとてもいいことだと思うし、これをやったら、きっとみんな喜ぶと思うんですけども、どうすると解決するとか、何とかしようとする。それでイベントだったりを企画運営する。それが達成感につながると思うんですけれども、そういうことが成し遂げられると、やっぱりやってよかったじゃないと。

今までそういうことをやっていないのは、きっと駄目だと言われてきたからであって、逆に駄目だと言う側も、それを認めちゃうと、今までの自分たちが言っていたロジックが通らなくなるというか、だって、今まで駄目と言っていたじゃんみたいな、それを許しちゃうと、今まではどうだったのみたいな。結局、非常に縦割りの組織みたいなのがそうさせるところはすごくあります。

おやじの会で盛り上がっている要因として、1つあるのは、自分たちもそういう社会の中で仕事をしたりとか、実際にいろんな問題にぶち当たるんですけども、それを何とかしよう、みんなで協力したら何とかできるかもしれないじゃんというのが面白いというか、みんなをかき立てる原動力になっている気がするなと思います。

○議長 ありがとうございます。

P T Aを先ほどキーワードで出しましたけれども、いわゆるP T A活動みたいなことが中心になる話と、今、お二人の委員が言われたのは、便宜的にP T Aというよりは、子どもを経由してつながっている、人とのつながり方みたいなこと。なので、ティーチャーとペアレンツのアソシエーションという意味ではなくて、同じ学校に通っている子どもの親という形のつながりがあるんじゃないか、それとは別に、P T A活動を通じて、いろいろ汗をかいたり、喜んだりしたという、2つの話が今出ていると思っておいたほうがいいと思います。

2つ目に政策の面で孤独相の話が出てきましたけれども、学校を卒業して、子どもがいなくて、地域とどんな関わりがあるかという、普通なくなっちゃいますよね。これは余

談ですけれども、私自身も千葉に住んでおりますので、地域活動は全くしておりません。世田谷を歩いていると知り合いがいますけれども、それ以外は孤独な老人にそろそろというか、リタイアして定年が見えてきて、地域に帰ったときに、全く何もしていないということです。こっちに引っ越してくれば、少し知り合いがいるかもしれませんが、そういう人は多いんじゃないか。ばりばり働いていても、東京で働いて千葉に帰る、埼玉でも神奈川でもそういう人は多いでしょうけれども、多分、そういう人でも、人生は長いですから、会社を辞めてどうするのということがあったときに、さっき言われたようなところが気になってくるんじゃないかという話が2つ目だったと思います。

それから、3つ目に出たきた話は、人とのつながりを持ちたいと思っても、気の合う人ばかりじゃないわけです。そうすると、どうするか、そこでコミュニティーをどうつくっていくのかという話の中で、とても面白かったのは、多くの人は会社とか組織に属していると、いつも好きなことばかりやるわけにはいかないので、これは駄目だよと言われることのほうが多いです。こういう組織に属しているからこそ、あるいは、今までの前例とかいろんな決まり事に接しているからこそ、もっとやりたいことをやるにはどうしたらいいか、それをやるから達成感が生まれるみたいお話だったと思います。なので、今、所属しているところが地元でなかったり、会社のような決まり事の世界だったり。だからこそ、決まり事のない、やってみたいことをやったり、上司とのいろんな関係は、言われなかったけれども、そういう関係性じゃない、子どもの親ということで出会った人たちと何かやりたいし、認め合いたいし、やったら、今までにはない、会社ではなかったような達成感を感じられるというのがキーワードとしてあります。おやじの会でいろんな活動ができている秘訣というか、大事になることじゃないかというお話だったと思います。

皆さんの御意見をいただきたいんですが、もう一方残っておりますので、先にお話を伺おうと思います。では、総合型地域スポーツクラブについて。

○委員 今話を聞いて、上下関係がないというのが一番いいですね。それが1つの大きなキーポイントかなと思っています。そういう意味では、一般の実社会と全然違うということです。私の今の意見に対する意見でした。

総合型地域スポーツクラブなんですが、簡単に言ってしまうと、地域の核としての学校施設資源及び人的資源を活用して、スポーツと文化活動を通して地域の一体感を構築する試みであるということになると思いますが、結果的に学校ですので、当然、子どもというのが関係してきます。特に今、部活動との関連がこれからは大きな課題となって出てくる

と思われます。

先ほど地域活動になぜ参加するのかと事務局から出てきましたけれども、なぜ総合型地域スポーツクラブ活動に参加するかというと、いろんな動機があると思いますけれども、安・近・短じゃないですが、いろんなスポーツとかと比べれば安い。それから、自分の近くにあるから近い。短はないですけれども、安近のもう一つは情報です。お互いに情報を伝え合う、近所で話ができる。安近情といいますか、それが一番大きな動機じゃないかなと思っています。

ただ、どの学校でも施設開放していますので、単独のクラブ、例えばバレーボールクラブとか、いろんなクラブがあります。多分、ここまでは共通だと思います。一番違うのは組織化されたということです。もう20年続いています。800人からの会員がいます。ということは、組織化されることが持続化につながっているんじゃないかなと思います。持続可能なという命題が1つありましたけれども、組織化するというのも1つ大事な要素じゃないかなと思っています。

逆に言えば、先ほど子ども食堂で出てきた、ふわふわと、何となく入るというのと対をなすんですけれども、組織化されているところはあえて行きたくないよという人も多分いるかと思っています。会費も払って、保険代も払ってなんて嫌だよ、ふわふわと行くのがいいよというのと対をなすんですけれども、いい悪いは別にしまして、組織化されることが持続化につながっていると言えるかなと思っています。そんなところですよ。

○議長 上下関係がないとおっしゃっていたけれども、代表がいたりするというのはあるんですよ。係がいたりとか。

○委員 ただ、この人の言うことを絶対聞かなくちゃいけないというのはないです。

○副議長 ある意味、形式的な代表制という感じですよ。

○委員 みんな仲間という感じで、みんな同率で、誰が偉いとか、誰の意見を尊重するか……。

○副議長 形式的に代表とか会長をやっているけれども、ちゃんと物を言える……。

○委員 言い方を変えれば、ため口を利けますよね。

○委員 そうですね。

○委員 そうですよ。そういう関係だと思います。会社でため口は利けないですね。

○委員 先輩、後輩もないですからね。

○委員 基本的に代表イコール連絡係という感覚です。

○委員　そうですね。日程を決めたりとか。

○議長　機能的にはそうで、権威的な上下関係はない？

○委員　ないです。

○委員　たまにあります。だから、気をつけないと、会長とかという名前がついた人はそういうものに陥りやすくて、そうなってしまっても、自分で気づかなかつたりするので、私は非常に難しい問題だと思っています。

○委員　組織ががっちりすればするほど、そういう関係が出てきます。

○委員　付度じゃないけれども、会長さんがおっしゃっているんだったら、やらなきゃねとか、そういうことも多分あるかもしれないし、それはそうじゃないということを会長が言っていないと……。

○副議長　共通認識として、メンバーの中にないと駄目ですよ。だから、ある意味、組織原理ですよ。

○委員　そうですね。

○副議長　伺っていて、こういう組織の原理として、1つ目は自主性というものがあり、2つ目は柔軟性というものがあり、3つ目にメンバー間の平等性というか、そういうものがないと、楽しい組織にはならないのかなと思います。

話を伺っていて、子どもを媒介にした取組。言い方はあれですけども、子どもにとって優しい町とか、居心地のいい町、環境を目指して集まった大人だと。でも、結果的には、それが大人にとっても居心地のいいというか、心地のいい関係とか、地域、町になっているというのは、特徴が共通しているのかなと思うんですけどもね。その中で、そういう原理があると持続可能になるし、組織化するにしても、その原理は大切です。任意性がある、自主性がある、柔軟性がある。そういう印象を受けました。

○委員　入る、出るは自由ですからね。

○副議長　そうですね。

○委員　今回、世田谷の社会福祉協議会さんと一緒にやっていて、社会福祉協議会さんは、どちらかというと高齢者の方のクラブをつくったりとか、サークルをつくったりしているので、そちらはすごく得意なんです。持っている施設も高齢者のグループに優先的に貸し出されるので、余ったところをけやきネットで取るみたいな形になりがちだったり、あと、うちの自治会などもそうなんです。秋のバスツアーとかお茶会というと、どうしても昼間の日程になるので、お子さんのいる世代じゃない。映画会といっても、昔の映画を楽し

みましようといった感じになるので、探してみると、安くて近くというものは、特に高齢者の女性にはすごく利用しやすいものはあるんです。

片や、今、世田谷という広い土地が相続できなくて売りに出て、小さな建て売りができると、若い世代がすごく引っ越してきて、赤ちゃんを産んで、まだ未就学児といった御家庭に町会に入りますかと言ったときに、何をしているかという話になると、ラジオ体操だったんですけれども、コロナでそれが今できなかったりということもあったり。神社がうちのそばに2つほどあるので、それぞれの神社がお祭りをしていたり、学校がフェスをやっていたりしたんですが、そういうのが一切なくなったので、入るきっかけが今すごくなくなっています。

ただ、そのときに、日々通って何となく声をかけたり、引っ越してきたんですねとやっ
ていて、町会もあるので声をかけたりすると、入ろうかなとなるので、声がけとか、そして、日本は災害の国なので、何かあったときの避難所は近くの中学校ですよとかというお話をすると、そこに行くには町会名簿に載っていないとチェックから漏れるということもあるので、探していけば消防団があったり、地域の古くからの関わりはあるんですが、なかなか入っていきづらい雰囲気だったり、それこそ知り合いがいなければ、どんなところか分からないので、自分からはノックして行かないということもあるので、私もおやじの会を知らなかったように、卒業してしまった後にきっとできたのかなと思いました。世田谷はすごくすばらしい活動が今あるので、それがもっと知れるといいんじゃないかなというのはあります。

そしてもう一つは、参加型ではなく、参画型、自分たちが入ってつくっていくというのはすごく楽しいことなんだろうなと思いました。

○議長 さっき上下関係がないという話をされたじゃないですか。でも、形式的にいうか、機能的には係がいたりしますよね。それが固定化していくと、それこそずっと会長と言われると、新しい人にとっては、会長さんってああいう人なんだなとなるじゃないですか。そうならないために、上下関係のなさみたいなのが確認できるというか、会長さんはいるけれども、会社の会長とかじゃないんだなとかいうのが分かるエピソードというか、皆さんがそれでそうなんだなと思うような場面というか、それが分かるような話はないですか。

○委員 コミュニケーションしかないんじゃないですか。

○議長 日々の？

○委員 細かく言うと、話し方もそうだし、何か決めるときの決め方だったりもそうだし、人間性というのは出ると思うんですけれども、それしかない気がします。トップダウンでこうだというやり方は絶対しないし、みんなの意見を聞いてやっています。1つ、おやじの会で気軽なのは、会社の組織とかと違うので、気に入らなかったらやらなきゃいいんです。それは気軽です。それはちょっと気に入らないから、いいわもできるので、それ以外のみんなで行ろうよと。どうしても趣向が合わないということは起こり得たりもするので、今回はやらないよみたいなこともあり得ます。

○議長 それが言えるだけじゃなくて、そう言っている人がいる場面を見て、多くの人は分かるわけですね。

○委員 分かります。じゃ、いいよ、自分でやるからという。

○議長 そういうことであると、少し私自身は分かりました。嫌なことはやらなくても済むよというのはすごくありがたいですけれども、しかし、世の中、嫌なことをやらなくていい場面は少ないですから、多くの場合、みんな我慢してやっていたりするので、ここは嫌なことは無理してやらなくていいんだと。最初は多分、そうとも思っていないと思うんですけれども、ちょっと嫌だなと思ってもやらなきゃいけないのかなと思うことはあると思うんですけれども、それはちょっとやりたくないなという人がやらなくても済んでいる、いいよ、いいよみたいな形を、おやじの会では目にするというか、感じるんですか。

○委員 要するに、時間があるときにみんな手伝ってくださいなので、そこはスケジュールが合わないからと言っちゃえば、角が立たないで参加しないことができるので、そう言っちゃえばいいだけの話で、自由参加じゃないですけれども、その緩さというのは非常に大きいと思います。

○委員 先ほどの会長と会員の関係性というところについては、私はここには世田谷区立中学校PTA連合協議会という、まさにPTAの代表の会長の経験者としているわけですが、PTAの組織というのは、そもそも同じ学校に通う子どもの保護者の中で、PTAの役員を決めましょうということで、会員という意味では子どもの保護者というだけで、皆さんと立場が同じ、対等な立場の中で物事を決めて、何か事業をしていくときに、代表ということで会長を決めましょうと、会長を決め、副会長を決め、役員という組織ができていきます。学校の会長さんが集まった、会長同士の会合の中でも、代表を決めておかないと、いろんなことが決めていけないよねということで、会長の中の代表として、私が世中P連の会長をしたということになります。でも、私も一人の保護者ですし、学校に

戻れば、ほかの会員の皆さんと立場としては全然変わりません。ただ、学校と話をすると、保護者のみんなが校長室に押しかけるわけにもいきませんので、代表の立場ということで会長をしていましたけれども、さきのおやじの会と一緒に、会員の中の代表が会長ということであって、偉いとか、何か権限があるということでは全然ないということがPTAの組織の中にありますので、そういう経験をした方々がやっている活動であると、皆さん、会長が偉いとか、会長の言うことを聞かなきゃということにはならないという一例をお話しさせていただきました。

○議長 役員経験者だと分かるんだと思うんです。そして、そういうことが分かっている方だと、さっき言われたような、いろんな決め事なんかもうまくいく。ただ、PTAという組織の場合には、よく分からないけれども、PTAの会員になっちゃっているという人たちにとって役員の人は、同じ保護者であっても、いろんなことをやってくださるから、偉いとは思わなくても、自分はあまり関わらないからという人はいないですか。

○委員 昔、私がやっていた頃よりも前の時代になると、役員の方々はみたいな感じでしたけれども、それこそ今はみんな在籍している間に1回はやりましょうよとかという話にもなっているので、誰もがPTAの会長をはじめ役員をする可能性があるということは、昔よりも今のお母さん方、お父さん方のほうが思っていらっしゃると思います。大分ハードルが下がってきているというか、誰にでもできるようにしましょうよという方向になってきていると思います。

○副議長 PTAは歴史が長いだけに、いろいろ地域によって違いそうですね。良識がある人が会長ならばいいけれども、歴史があるだけに、昔ながらのPTA会長のイメージですと…。昔は保護者の代表ばかりではなかったですね。地域の方がPTA会長になるケースもあったみたいですね。そうすると、地域ボスとか、変な仕組みが生まれるみたいな。でも、世田谷ではないですね。

○委員 学校によっては、商店街の方々の中で指名制があって、商店街の関係者が順番になっていたというところもあるみたいです。保護者だけでも、商店街の中で回っているということも聞いたことがあります。

○副議長 面白いと言ってはいけませんけれども……。

○委員 地域性ですね。

○議長 世田谷といっても広いですし、いろんなエリアがあるので、一口には語れないですね。

○委員 P T Aというのは、会長さんもそんなに長くやっていないですよ。

○委員 そうですね。やろうと思っても、子どもの在籍期間しかできないので。

○委員 大体そんなものですものね。

長く会長をやっていると駄目です。だから、会長がどんどん替わればいいんですよ。
さっき組織化が持続可能だと言ったけれども、それはメリットなんですけれども、確かに組織化すればするほど、精神的な上下関係が出てくるかもしれませんね。

総合型地域スポーツクラブの場合にも会長さんがいるんですけれども、意図的に地域の名士とかそういう人を置くというケースが結構多いんです。そうすると、そういうデメリットが出てくる可能性もあります。ただ、その人たちが10年も20年もやっているとは完全に弊害ですよ。総合型地域スポーツクラブも会長さんは3人替わっているのかな。そういう意味では、あまり長くなると…。組織は何でもそうですけれどもね。だから、どんどん替えたほうがいいんですよ。P T Aなんかは、会長さんはそんなに長くやっていないから、いいですよ。

○委員 1年しかやっていません。

○委員 10年もやっている会長さんはいないですよ。

○議長 二、三年はあるんじゃないですか。2年とかはありますよね。

○委員 二、三年はあれだけでも。

○委員 二、三年はありますね。

○委員 5年ぐらいの人もありますよね。

○委員 聞いていると、今話しているのと大分様子が違う気がしています。まず、P T Aに入会しない人が増えています。それから、改革の意思を持って、今のやり方に対して意見を強く持っているので、会長になって入ったけれども、それが受け入れられないから、途中で任期を下りるとか、結構そういうのを聞いてきたので、難しいなというか、どうなんでしょう。

○副議長 P T A内部で内輪もめでって聞きますよね。

○委員 それがあるので、だんだん活動自体がシンプルになっているというか、どうなんでしょうね。

○副議長 P T Aと私が最初から強調したのは、きっかけがそうだって言っている、今、P T Aがそういう状況にあるじゃないですか。入会しない人が増えているとか、任意団体だけに……。そうすると、これは将来の地域に相当危機だなと思うんです。それこそ、先

ほど言われたように、孤独の問題ですよ。子どもがいても、子育てが終わった後にどんどん孤立化していってしまう。だから、そこなんですよ。

○委員 今、PTA活動のお話があったんですが、今、PTA代行業がすごく話題になっておりまして、PTA活動をやりたがらない。代行業をどこかの会社がつくったんですよ。

○議長 ニュースに出ていましたね。

○委員 それがすごく好評だということで、小学校というと、私はそろそろ孫の世代ですけども、代行業でPTAをやるとなっちゃうと、今の校長先生がやりたくないという事実はある。自分の思いがいかないと、ぷっと辞めてしまうというのが本当に広がって、その中で、PTAは代行に任せればいいんじゃないかと同時に、東京都小学校PTA協議会は日本PTA全国協議会を外れましたよね。そういうのがまかり通っちゃっていますから、PTAの大切さを私もPTA出身で、青少年委員会を通じて、皆様とこういう話をできるんですが、今現在の若い人たちの保護者の考え方が、ましてコロナで離れて希薄になっているところで、そんなのは人に頼めばいいやというのが主流になってくるというのは、すごく危機感です。

今、テーマで持続可能と言っていますよね。その根本が崩れていっちゃうんじゃないかという一抹の不安が、青少年委員会に携わっていて、今現在の私としてあります。

それからもう一つ、今日、青少年委員会の役員会がこの場であったんですが、そのときに新しい情報で、世田谷区は給食を無償化にするという動きもあるようですが。幼稚園、小学校、中学校のPTA連合会の会長及びいろんな有識者が集まって意見交換会があったんですが、無償化にするということに対しては、かなりのデータを集めて、世田谷区は無償化をしなければならないんじゃないかと。給食費が払えない子が世田谷にいる？という感覚で我々はまず捉えたんですが、貧富じゃないんですが、皆さん平等に子どもたちに1日1回でもいいから給食を食べさせたい。聞いているだけでクエスチョンを……。だけれども、世田谷区でも、あるデータが出ているということでした。PTAの代表の方も、やはり代表なので、直接には言えない。皆さん持ち帰って、また意見交換するんだけど、子ども食堂の走りも、今はそこまで無償化ではないがその中で、意見として、無償化するよりお金を出して、もっといいものにしたいとか、無償化することによって食材とかそういうのが落ちるんじゃないかという意見も出ているらしいです。これは余談なんですけれども……。すみません、外れましたが、ちょっとお話しさせていただきました。

○副議長 興味深い話ですね。

○議長 給食無償化はちょっと話が……。面白い話ではありますが、多分、政治的な判断とかありますし、守秘義務があるので、話せない部分があると思いますが、今、委員が言われたように、貧困の問題はあるんですけれども、払える人たちもいるから、どうするんだという議論に恐らくなっていくと思います。

○委員 すみません、余談になりました。

○議長 P T Aも今特にニュースになっていますので、入らなくていいんじゃないかとか、わざわざ行って、ベルマークを2時間かけて切り取っても大した額にならないんだったら、私は1時間5000円稼げるので、働いて、その分、誰かにお願いしていいんじゃないかという方たちがいます。合理的に考えれば、そうなのかなと思いますけれども、一緒にやることの意味もあったでしょうということで、いろんな考え方がありますよね。ただ、世田谷は、そういう部分も含めて、地域活動がかなりありましたし、P T Aもかなり優れていて、すごくたくさんしているので、そういう中の転機をどうするかですよね。

これも外れちゃうんですけれども、私が今住んでいる町は、海を埋め立ててつくったところなので、町会はありません、消防団もありません、P T Aもないんじゃないかな。P T Aじゃなくて、親たちの会と言っていますから、町会がなくても何とかなっちゃうんです。マンションだけの町ですから、マンションの理事会はあります。でも、その手のものが何にもないところなんです。それから比べると世田谷は、地域での活動もそうだし、学校もいろんな活動がすごいですね。千葉はもっとシンプルです。それでも何とか子どもは育ってくれるみたいな形なので、ここは世田谷の会議ですから、ほかのエリアの話はあまり中心になりませんが、比較したときに、世田谷のよさと、もしかしたらいろんな組織とか、いろんなやっていることが多いのかもしれない。でも、経済的にも一般的には豊かですし、文化的にも豊かだという社会の中の地域資源、学校をどうつくっていくかということなのかなと思うんです。

今、4人の方からお話いただきました。ホワイトボードに皆さんのお話のキーワードを書いていただいたと思うんですが、せっかく書いていただいたので、いかがでしょうか。聞きながら書かれていた事務局、今のお話をメモしながら感じたこととかはありませんか。

○事務局 組織化するかしないかという中での、ふわっとしたところ、何となくという活動もあれば、組織化すると、なかなかそういう関係にはいかないという、相反するというか、対照的なところもあって、ただ、それでも成り立っているというものがあるというこ

とですね。だから、そういう面では、どちらか一方じゃなきゃいけないというわけではないんだろうなという気はします。

それから、やっぱりPTAの存在というのはすごく大きくて、今、地域で活動している町会をはじめ商店街もそうですし、民生委員さんもそうですし、あるいは、青少年委員さんもそうですけれども、よくよく見ていくと、もともとPTA経験者だった人が多いということも、第29期の報告書の中では言われています。ただ、コロナの影響で、特に令和2年は、おやじの会も含めて学校に来ないでください、活動がなかなかできなかったということで、引継ぎが2年できない上に、やったことがない人たちがさらにそれをやっていかなきゃいけない、令和4年ということなので、やらない期間が多かったのも、本来、大事にしなきゃいけないという部分が、大げさに言うと文化の継承みたいなのが少しずつなくなりつつあるように感じます。不要なものは削減してもいいと思うんですけれども、そこら辺をどう守っていくのか。一方では、さっき議長が言われたように、何にもなくても困らないじゃないかという考えもあるので、この辺はどうするのか。

変な話ですけれども、今、千葉県もそうですけれども、いろんな幼い子どもたちが悲惨な目に遭っているという状況からすると、もし世田谷のどこかで交通事故とか痛ましい事件が起こったときには、また変わるんだろうなと。ただ、それが起こってからでいいのかどうか。そうすると、日頃からどういう活動をしなきゃいけないのかというのは考えていかなきゃいけないんですけれども、この2年やっていないから、別にいいよねというのが、もしかしたら今のPTAにはあるかもしれないです。それは分かりませんが。

○議長 ありがとうございます。

なくてもいいよねというのは、そういう意味じゃないんですけれども、町自体が20年ぐらい前に埋め立ててつくった町ですから、神社もなければ、祭りもないわけです。PTA活動もない、町会もないです。でも、PTA活動としてではないんですけれども、そこに子どもの親として集まった、特に元気のいい、新しい感覚のお母さんたちは、自らをマクハリーヌと呼んで、10月になるとハロウィンみたいなのはやるんです。ハロウィンはあるけれども、ほかのはないという、珍しい学校のパターンです。そういうふうな地域での活動で、みんなでハロウィンコスチュームをやって、トリック・オア・トリートと回り回ったら楽しいよねみたいな、楽しいことをふわっとだけけれども、誰かがやろうねと言ったら、やれちゃう人たちがいるんです。自分たちも楽しい、子どもも楽しい。横から見ていただけなんですけれども、そういうのは、ふわっと自然発生的にできると思うんですが、長続

きするかどうかは分かりません。でも、東京に勤めている人が定年になると帰るとすると、そこに何も無いことに多くの男性が気がつくんです。それはいいというか、もしかしたらちょっと先に行っちゃっていて、これから一番最初に困るエリアなのかもしれないです。一戸建ての家はない、マンションしかないという町です。

○委員 そうすると、知り合うのはエレベーターの中とか、そんなことはないですか。

○議長 上下左右は知らない人です。買ったときは、そのエリアを買った人たちが入りますけれども、途中で入れ替わりがありますから。子ども連れの人も入りますので、そうすると、エレベーターで話しかけたりはしますけれども、残念ながら、もちろん名前も知りません。それ以上の関係性はつくらないのがルールです。洗濯物も外に干さないのが基本ルールになっていますから。そういう町です。ただ、同じようなマンションに住むということは、経済的には同じような人たち、同じような思考性を持っている人たちです。

子ども食堂的なものがありました。つくっているのを見たことがあります。話はしたことがないですけどもね。そこでも文化的な活動はしますし、公民館にピアノを置こうという活動があったりとか、いろいろなことはどこでもやるんですけども、それが世田谷みたいな蓄積のある町ではないということです。

○委員 1つよろしいですか。ちょっと話が飛ぶかもしれないです。これに出ていないんですけども、とても大事な要素だと思うのが、学校が災害の避難所になりますよね。その視点というのはやっぱりかなり大きな要素じゃないかなと思うんです。阪神・淡路大震災があった後と3・11、あの辺は物すごく学校にプレッシャーと言っちゃいけないんですけども、のしかかってくるんです。地域の方も非常に関心が高い。ただ、これだけ時間がたつと、だんだん忘れてきて、世田谷はどちらかというリスクの感覚がないでしょう。多摩川に近い学校はとてもあるんですけども、ほかのところはあまりないんです。でも、そんなことを言っていられないんじゃないかなと思うので、災害の避難所に対する地域の関心というのかな、それに対して学校がどれだけニーズに応えていけるのかというのは非常に大きな要素かなと思います。

持続可能な要素になるかどうかはちょっと分かりませんが、地域として一体感が、地域としてまとまれば、これに対する1つのワクチンにもなり得るんです。これもやっぱり捨ててはおけない要素かなと思いました。今日、たまたま出ていなかったの。

○議長 ありがとうございます。おやじの会の話のときに、避難所的な話も出ていましたよね。

○委員　そうですね。さっきPTAを外部委託するという話がありましたけれども、業務をやるのが趣旨になっていて、確かに共働き世帯が増えているから、そんな時間はないよという若いお父さん、お母さんが増えていくと思うんですけども、PTAの趣旨は連携することに意味があるのであって、業務をやることというのは副次的に生まれるものだという、やることに対する大義を確認しないと、話がおかしくなると思います。

今おっしゃったように、おやじの会も、サッカーをやったり、ソフトボールをやったりして、みんなで練習して、エイエイオーとやっているんですけども、まさにこれは防災訓練だと。みんながいつ集まって、スケジュールを立てて、場所を取って、みんなで練習するということ、役割分担しながら、みんなで何かをやっていくこと自体が防災訓練であって、実際に小学校で防災訓練はやりますけれども、それよりも顔見知りであったりとか、そこで連携して一緒に動く、一緒に何かをやっていくということ自体が防災訓練なんですよと言っているんです。

僕がこういう話をするときに、おやじの会のみんなに言うのは、さっき避難所の話が出ましたけれども、みんなプライドが高くて、それぞれ意識も高いから、避難所に入ってきたときに間違いなくいがみ合います。おやじの会のイベントで学校に泊まろうとかをやるんですけども、体育館はきつとうるさくて寝られないですよ、冷たいし。いらいらして、不安の中で、顔見知りもない、知らないやつが何か言ってきたら、けんかになるに決まっているじゃないかと。でも、そこでおやじの会の顔見知りがまあまあと抑えることができれば、避難所もうまく運営できるかもしれないけれども、全くつながりがなくて、はい、どうも初めまして状態の避難所でみんな集まったら、絶対いがみ合いますよね。

ここにも書いてありますけれども、この間、おやじと子どもフェスタという、子どもたちがホールで発表するというイベントをやったんですけども、そこでも顕著に出た事例があって、当然、イベントをやるには感染対策をしなければいけないから、マスクを必ずつけてくださいと。子どもたちも演技をするとき以外はマスクをつけてくださいと。当然、そこに保護者も入れたんですけども、保護者も絶対マスクをしてくださいねと言って、入場するときにチェックしたんです。そうしたら、マスク反対派の人がいて、マスクを強要されたと。オール世田谷おやじの会に問合せが来て、あり得ない、世田谷区の方針としても、マスクは協力要請になっていて、強制ではないはずだみたいなクレームが入ってきて、イベントで感染対策をしているのは、オール世田谷おやじの会のイベントに対するルールだ、それを守ってくれる人が参加してくださいと募集要項に書いてあるので、そこで

行き違いがあったというのはそうなんですけれども、絶対そういうことを言ってきます。いろんな考え方と、正解は何もない。世の中にこれが正しいってないから、これはルールだと。避難所にしても、これが避難所のルールだというふうにして、みんなで共有してやらないと、絶対いろんなことを言ってきて、ごちゃごちゃになって、結局崩壊するとか、うまくいかないということは絶対起こるなと思っているんですけれども、おやじの会のみんなには、そういうときは頼むよ、みんな連携して、そういう人たちを抑えてねと言っています。

○副議長 文部科学省もコミュニティ・スクールを広げるときに、3・11のときのそういう事例を出すんです。2011年3月11日にコミュニティ・スクールをやっていた被災地の学校は、やはり避難所運営が非常にスムーズにいったと。逆に地域とのつながりをやっていた学校は、避難所に行ったら、もめごと、避難物資の取り合いとかそういうものがあつたと。学校にとっても実はコミュニティ・スクールができてよかったんですよという事例も挙げられていて、地域とのつながりがないと、避難所は学校の先生たちがやるべきものだと思いますよね。世田谷の場合も避難所運営委員会で地域の人がやることになっていきますけれども、多分、学校だから先生がやるべきだと。ところが、宮城のほうの学校でも、ふだんから地域とのつながりをやっておけば、学校にとっても、先生は学校のことがあるんだから、学校のことをやって、地域のことは自分たちが避難所でやるからというような事例があつたと。だから、コミュニティ・スクールをやりなさいという、政策的なんですけれども、そういうことを一時期文科省が発表しました。

○議長 今、言われたのと全く同じことなんですけれども、世田谷だと、若井田教育長の時代に平成9年から学校協議会を始めたときに、阪神・淡路大震災のことを見て、地域との関わりがあると、この教室は落ち着いたらまず授業をする場所だ、ここは避難の場所だとして、鍵も地域の人がすぐ使えるようなところ、分かっているようなことが校長先生との話でできているところはうまくいくと。そういう関係を全部つくりたいといって始めたのが平成9年の学校協議会です。そのときの3つの柱は、青少年の健全育成と教育活動の充実と防災だと言っていました。前の前の教育長です。

○副議長 まだ学校協議会はあるんですよ。

○議長 あります。次から次へと組織ができちゃって、地域の人にとっては、どれがどうなっているのか、私は今何でここに来ているのかというのがよく分からないという。それは整理されないままですけれども、基本的な考え方は、顔見知りになっていると、やっぱ

りいざのときにはいいということですよね。何のときでもね。子どもたちも一緒にやれば、中学生なんかは物を運んだり、瓦礫を片づけたり、役に立つみたいなこともあって、高校生は地域の外に行っちゃうけれども、中学生までは地域にいて戦力になるみたいな話をよく若井田さんから聞いていました。

○副議長　そういう関係性がないと、殺伐とした環境になりますよということです。PTAがなくなるということは、ここにある前提の、そのうち地域の関係もだんだんなくなってしまふとなると、本当に殺伐とした、個人個人が頑張らないといけないし、それぞれお互いが競い合うというか。

○議長　私が住んでいる幕張のマンションはそうです。学校が避難所にならないんです。なぜかという、マンションのほうが頑丈だから。避難訓練というのは、津波が想定されるので、子どもたちは校庭じゃなくて、近くの高いマンションの階段をずっと上に上がりなさいということで、住んでいても住んでいなくても、5階以上にとにかく階段を上っていきましょうというのが避難訓練です。その中で、管理組合の理事なんて抽せんで回ってきますから、やることは、まさに上下左右の知り合いをつくりましょうということで、みんなで庭でパーティーをやったりみたいな、直接関係のないようなことをしますけれども、それをしないと困るでしょうと。あと、みんな東京に行っちゃっていますから。

3・11ぐらいの地震だと、マンションは壊れないんです。ライフラインが崩れて、水道が使えなくなったり、電気が止まったりしますけれども、まず倒れない。もしそれが倒れるんだったら、日本はかなり危ない状態なので、マンションは倒れない。でも、ライフラインは崩れるとすると、自分の部屋に3日間とかいるのが一番安全ということで、学校には行かないです。それよりも学校から引き取るときにいろんな問題があって、お父さんが帰ってこられない、お母さんも帰ってこられないという場合に、どういうふうに子どもを引き取らせるか。その引取りがないときだけ学校で預けるという話になっています。知り合いをつくるのが一番大事で、どう消火するとかという話はその次だということなんです。そういうことも含めると、今言われた、地域で知り合いがつかれなくなってしまうかもしれない。今、唯一あるのが子どもを通じての関係性だという話だったので、そこをどうするかですね。

時間との関係が気になりつつ、話題を1つ提案というか、皆さんに教えていただきたいんですが、さっき、ふわっとした関係はいいけれども、PTAみたいなところとか、代表みたいなのはいるけれども、そんなに上下関係はないという話をしましたが、組織として

つくっていくことが、1つ持続可能なことにつながるんじゃないかとおっしゃっていたと思うんです。それは確かにそのとおりですけれども、組織化していくと同時に、持続していても、形骸化していくようなところがあると思うんですが、形骸化を防ぐような工夫というか、そういうものがあれば、皆さんから、知っていることで教えていただければなと思うんですが。

つまり、形骸化の中には、いつの間にか偉くなっちゃった人が何年もやっていくと、その人に対して意見できなくなっちゃうと。それも1つの形骸化というか、硬直化ですよ。それは持続可能性ということだと、いいことではないですよ。それから、やっているけれども、いつもルーチンでやっているみたいなこともまずいと思うんですけれども。メンバーの入れ替わりなんかもそうかもしれないし、適度な入れ替わり。それから、研修みたいなのがうちのところでうまくいっているとおっしゃっていたけれども、うまくいけば、それは形骸化していかないことに……。

○委員 やっぱり時代を読んでいくということになりますから……。

○議長 それがうまく機能しないと形式的な、やっていることをやるみたいになっちゃうと思うんですが、その辺はいかがですか。

○委員 さっき、ふわっとしたのがいいと言ったんですけれども、長く続けるためには、組織化はやっぱり必要だと思います。先ほどお話が出たように、会長は別に代表なだけであって、何か1人で参加しなきゃいけないときは、会長が行ってくださいみたいなくらいで、その上下関係というのはあまりない組織がいいんじゃないのと思いますけれども、次、誰が会長をやる？と。誰がやってもいいんですけども、来年、あなたねみたいなぐらいの位置づけの代表であっていいんじゃないかなという気がします。それがないと続かないというか。組織化すると、当然、最初は代表を決めてとなりますけれども、その時々で雰囲気が変わったりとかはあるかもしれないですけれども、それが組織の伝統じゃないですけれども、受け継ぐ者として背中を見せるというか、自分たちがやっていたときは、こういう感じでやってよかったよねという部分を押しつけるではなくて、こういう形でやったらいいよみたいなのでつなげていくというぐらいの意味で、組織化はあったほうがいいと思います。

○議長 私がちょっとまだよく分からないのは、お話としては分かるんですけれども、ほかの人が聞いたときに、組織化はしたほうがいいけれども、形骸化しない、会長、上下関係はつくらないで、みんなでやって、誰もができるように背中を見せると言われたんです

が、それをそのまま申し送りしても、あるいは、ほかのグループが聞いたとしても、それでやっていけるか。それだけだと、まだ分からないような気がしちゃうんですけれども。もっと的確なイメージというか、伝えたいものがあるような気がするんですけれども、いかがですか。

○委員 答えにならないんですけれども、心がけているのは、なるべく属人化しないようにするというか、この人がいなければできないとはしない。誰がやってもいいんじゃないのというのは、誰でもできるようにしておくというのは、組織としては非常に重要だと思います。

○議長 多くの組織は、そういう人にいろんなものが所属しないような形をしようとしているのではないかなと思うんですが、それでも形骸化していくことが多いような気がするんですけれども。

○委員 ワン・オブ・ゼムでいろいろ手段はあると思うんですけれども、これからの問題として、スタッフに女性を増やすことだと思います。男性中心になってくると、今、議長がおっしゃったような硬直化、形式化が出てくるんじゃないかなと。東深沢スポーツクラブもスタッフは女性が多いんです。

○議長 それはなぜですか。PTAは女性が多い組織ではないですか。

○委員 地域によると思います。世田谷は会合が昼間にあることが多いので、当然、昼間、おうちにいる女性が出てくるが多かったんですけれども、会議が夜にあるほかの区なんかは、男性の会長さんが非常に多いです。そこは会議とか活動の内容によることだと思います。

○副議長 基本的に自発的に集まった組織なので。さっき何度か言われているように、やりたくない人は辞めていっちゃうので、そういう人が会長になることは多分ないですよ。やりたくない人が会長とか、やる気満々な人がなっちゃうと、少し大変なことになるかもしれない。形骸化という意味では、やりたくない人がなっちゃえば形骸化しますよね。

○議長 形骸化の心配はないんですか。

○副議長 私のイメージの中では、ないんじゃないんでしょうか。どうなんですかね。基本的にやりたい方が集まっているから。

○議長 形骸化というとちょっと言葉が悪いんですけれども、基本的な僕の理解では、組織化していくと官僚化していきますので……。

○副議長 でも、給与が発生しないから。報酬も権限もそんな……。

○委員 男性が上に立つと威張るから、これからは女性の時代ですね。

○委員 女性が威張らないかといったら、そうとも限らない……。

○議長 分からないですけども、小学校はトップが女性だったりする場合も多いし……。

○委員 校長？

○議長 校長。

○委員 まだまだですよ。

○議長 でも、ほかのに比べたら。P T Aも女性は少なくないですよ。

○委員 会長は男性というのは結構ありますよね。

○議長 ありますよね。

○委員 会長は男性でも、ほかの役員の方が全部男性のP T Aはあまり聞いたことがないですよ。

○委員 そうですね。むしろ男性会長だと、会長は挨拶だけしてくれればいいから、後は副会長ががっちり固めて、実務はそこがやるからという形が多いと思います。

○委員 おやじの会でも女性メンバーがいる学校もありますよね。

○副議長 逆にP T Aのほうは歴史的に長いから、これはやらねばならないみたいに思い込むところもあるんじゃないですか。どうなのでしょう。

○委員 そこは改革していきたいという方々が非常に多いです。

○委員 変わってきていますよね。ちょっと変わってきましたよ。

○委員 会議はオンラインでやりましょうとか、プリントはやめて、全部データで送りましょうとか、出欠もグーグルフォームで入れていきましょうみたいになっています。

○委員 それは変わってきましたよね。

○副議長 それがいいのか悪いのかは……。

○委員 そうですね。そうすることによって、顔を合わせる機会が減って、知り合いが減ってというふうには持っていかれていると思います。

○副議長 代行よりはましですね。意欲的でいいことですよ。

○委員 そうですね。使える人が本当に増えているんだなと思います。

○副議長 いいことですよ。

○委員 今の話だと、既存のある活動については、そうやって組織化という話はあるんですが、私たちみたいな小さな活動だと、組織化以前の話で、代表とかメンバーの色で、誰に縛られるわけでもなくやっている活動、楽しくてやっているとなると、私の今の子ども

食堂であれば、やっぱり代表の色が多分あると思うんです。その中に支配的にはなっていないにしても、いろいろな形があるので、組織化以前の話の活動もあるかなと。うまく言えないんですけども……。

○議長 今回の4つのパターンの中にも、いろんな要素があると思います。子ども食堂の話で継続性ということと言うと、多分、もうお話しされていることなんですけれども、あるエリアでの子ども活動は、いろんな理由で目的を果たした場合もあるでしょうし、そこでの活動が家賃の問題とかもあるかもしれない。担い手の問題でできなくなったかもしれない。でも、そこは閉じて、別のところで、別の名前で継続されているという意味での継続性があったりする。

○委員 そういう意味では、活動を置いてきたので、まだそこもやっているような……。

○議長 それはそうだとすると、委員自身が自分としての活動じゃなく、別のことを始めても、活動自体は継続しているというところをちょっと頭に置かなきゃいけない。それから、ふわっとしたとか、代表の方のカラーであるとかということも活動としてはあると。それと、ある程度、伝統的な組織でやっていて、形としてはかっちりしているというのも1つある。どっちがいいとかじゃなくて、両方ある。2つじゃないでしょうけれどもね。また、PTAの活動で出会ったかもしれないけれども、PTAというか、子どもの親として出会ったかもしれないけれども、一方で、それぞれが組織の中で仕事をしているけれども、その組織の中ではやれないとか、出せない思いみたいなものをおやじの会で求めているみたいなものもあるし、幾つかのパターンが出てきているんです。それぞれ、なぜそれがうまくいっているのか、困っていることは何なのかということを確認しながら、形は全然違うんだけど、継続していくということとか、地域での関わりでやっているところの共通なところを取り出して、参考にできないかなということです。さっき形骸化という言葉を使ったのは、組織としてずっと維持していくことをきっちりやろうとすると、もともとの始めた思いがなくなってしまうかもしれないとか、後から来た人は、よく分からないけれども、みんながやっているとおりにやっているとかがあるとすれば、それは何なのかなと思いがちだと思います。

PTAのほうでは、今、時代の変わり目で大分やり方が変わってきているらしい。それから、コロナもあって変わっているらしい。もしかしたら昔は顔を合わせないと活動はなかったのかもしれないけれども、今は顔を合わせないままに1年活動が終わっちゃったかもしれないみたいなこともあるので、それは環境が変わったから、強制的に変えられちゃ

っているところもあるんでしょうけれども、そういうことも現実に関わりながら、でも続いているから、そこで得るものもあるだろうし、それは何なのかなということが気になって、皆さんの御意見をいただいていたというところでもあります。

そろそろ予定の時間になってきますが、まず、全体として、これはぜひ発言しておきたいということがあれば、いかがでしょうか。

○委員 全体的なことなんですが、これも異論があるかと思うんですけれども、今、バーチャルな世界がすごいですよね。SNSを代表として、AIとか、メタバースとか。若い人たちはこれでつながっていることがとても多いじゃないですか。それに対して、リアルな世界、現実世界が、地域という人と人とのつながりがより一層大事になってくると思うんです。どんどんSNSとか、いわゆるバーチャルな世界に行ってしまうと、それこそ我々が現実でリアルな世界で人と人のコミュニケーションがだんだん薄くなっていくという意味では、地域活動というのはとても大事になってくるかなと思うんです。私なんかはとても疎いから、バーチャルな世界は分からないけれども、現実世界、リアルな世界を何とか大事にしていきたいなと本当に思います。

だって、リアルな世界が必要ない世界になってくるわけだから。そうすると、例えばさっきの防災じゃないけれども、災害があったときにはどうなってくるのか、SNSで防災はできないだろうということです。だから、ふだんの人と人との関わりだって、SNSでつながるのはいいけれども、実際に面と向かって何ができるのかというところで、その辺がとても大事になってくるなというのが今日議論していて感じたことです。

○議長 これもとても大きな問題なので、短い時間では話ができないと思うので、また機会を改めてと思います。

ただ、地域活動をされていても、SNS的なものを使われたり、LINEでということもあると思います。おやじの会でSNS的なものを使ったりはあるんじゃないですか。そんなことはないですか。

○委員 ホームページだったり、インスタで情報交換したり、イベントの様子を伝えたり、それを見れば、この間のイベントはこんなだったみたいなのがあるようなことがあります。

今の話で思うんですけれども、おやじの会はいろんな仕事の人がいるじゃないですか。組織じゃなくて、自分で仕事をしている人がいるでしょう。ふだん、籠もっているんです。彼は飲み会に呼んでほしくてしょうがない。飲み会があったら、ぜひ誘ってくれと。ほか

とのコミュニケーションがふだんないから。それと同じことが今後起こると思っているんですけども、ツールだったり、SNSだったりとか、デジタル化が進んで、より効率的になると思うんですけども、実際にリアルに会って何かをするというのは、プレミアムがつくんじゃないかと思います。両方いくと思うんですけども、リアルで会ったりとか、リアルに何かするということは、それはそれですごく貴重なことになる気がします。

○議長 多分、それを言われているんですよね。

○委員 そういうことです。

○議長 世代によると思うんですけども、それもしながら、SNSとかをやっている人もいるし、SNS的な世界でやる仕事や教育もあるかもしれないし、交友関係もあるんだろうと思うんですが……。

○委員 今言われたように、ツールとして活用するのはとてもいいと思います。便利なツールですからね。

○議長 ある意味では、それをもっと地域の中にも取り込んでいくみたいなことをこれからは考えていかないといけないのかなとも思いますが、どちらかというと、そういうことができる世代から少し遠ざかっているものですから……。

○委員 遠い世界になってきたから……。

○議長 それはまた別のときのお話しさせていただきたいなと思っています。

ほかはいかがでしょうか。

時間がだんだんなくなってきましたが、今日はいろんな形で皆様から審査をいただけたんじゃないかなと思っております。最初に申し上げたように、今までの2回のグループワークでお話しした後、次の話に行ってしまうと、ちょっともったいないなというか、もう少し話をしていたことを整理して、共有して……。

これは年度末にシンポジウムかワークショップをやるんですよね。

○事務局 そうです。その予定で計画を立てております。

○議長 という予定だそうなので、今年に何か報告書をつくったり、先ほどの実践モデルというものを提示するまでには至らないかなと思うんですが、年度内にそういう活動をするということなので、次回の話になりますが、次回は12月……。

○事務局 皆さんに日程調整をさせていただいたところ、12月8日木曜日が一番多かったということもありますので、第5回は12月8日木曜日18時半から、こちらの会場を予定しております。

○議長 年内はそれが最後じゃなくて、もう1回あるんですか。

○事務局 年内はこれで最後になります。年が明けて1月を予定しておりますので、日程調整を後ほどさせていただきたいと思っております。

○議長 そこら辺が最後ですか。

○事務局 さらに今年度の予定でいきますと、先ほど言った第6回を1月、可能であれば、ワークショップを3月ぐらいにしたいというところで考えております。

○議長 ということは、12月と1月と3月ということで、3月にワークショップをしたいということですので、恐らく次の12月と1月は、ワークショップに向けて、どういうワークショップをしましょうかということを皆様と一緒に考える回になると。そういう理解でいいんですね。

○事務局 そのような予定をしております。ですから、地域と学校の連携協働という形になってきますので、実際に今回は地域活動について、しかも、持続可能についてということで、皆さんでグループワークをやっていただいたり、キーワードになるようなことをお話ししていただきましたので、今後、それを基にしながら、どんなふうに学校と連携協働できるのかというのを具体的に考えていながら、どういう形でワークショップをしながら検証していくのかというのが、次年度、2年目の計画みたいな形になろうかと考えております。

○議長 今までの30期の会でも、地域の大人が出会う場所というのはそんなにないよということで、子どもを同じ学校に通わせている親として出会うのが唯一じゃないか。人によっては、そこでPTA活動もかなり経験して、子どもが卒業した後、自分がいわゆるPTAの役員のなところからは卒業した後、地域のおやじの会とか、地域スポーツとか、青少年委員とか、そういった活動をされていることにつながっているんじゃないか。そういう活動をする人はまだよくて、もしかしたら子どももいなければ、地域にいても誰とも出会わないという人も今後増えてしまって心配だ、特に災害なんかのときには困るんじゃないかみたいな話も皆さんから出していただきました。必ずしもコアなPTA活動じゃないかもしれないけれども、そういうことがあるし、コアなPTA活動をすると、また広がっていくだろうということも含めて、今後、学校との接点を少し意識しながら、学校と地域、家庭との連携協働の実践的なモデルを考えていこうと進めていきたいと思います。

では、次回はそんなふうに今日のを基にまた考えていきたいと思います。

特に皆さんからないようでしたら、時間になりましたので、今日はこれで終了したいと

思います。ありがとうございました。